

II 基本構想

素案

未来から逆算して考える

2015（平成27）年度に第5次津久見市総合計画を策定してから、この約10年間に於いて、津久見市をとりまく環境はめまぐるしく変化してきました。人口減少と少子高齢化の加速、地方創生の取組の強化、新型コロナウイルス感染症の流行による人々の行動変容や急速なデジタル化も進展しました。さらに、地球温暖化やそれに伴う自然災害の激甚化も深刻さを増しています。

今後も、さらに加速度的に世の中が動いていくと考えられる中で、①長期的な視点に立ち、②まずは10年後にどのような姿を目指すのかを定め、③そこに到達するためには、逆算して何をすべきか、どう進むべきかを考えていく必要があります。

第6次津久見市総合計画の基本構想は、このように未来の理想の姿から逆算して考えることによって、体系立てていきます。

未来から逆算して考える

① 究極の目標（p.37）

長期的な視点に立つ

② 10年後の将来像（p.38-39）

まずは10年後に
どのような姿を目指すのかを定める

③ 3つの柱（p.40-41）

10年後の将来像に到達するためには、
何をすべきか、どう進むべきかを考えていく

「市民の Well-Being 向上」を究極の目標にする

I章でも示したとおり、第6次津久見市総合計画では、市民の Well-Being 向上、つまりすべての市民が身体的・精神的・社会的に良好な状態であることを究極の目標にします。また、市民の Well-Being を数値化・可視化するツールである、「地域幸福度（Well-Being）指標」を活用することにより、データや合理的根拠（エビデンス）に基づいて政策をデザインする、「EBPM（Evidence-Based Policy Making）」と呼ばれる手法によって計画策定を進めました。

「市民の Well-Being 向上」を、長期的な視点に立った究極の目標とすることで、データに基づいた政策立案を実現しながら、市民一人ひとりの「暮らしやすさ」や「幸福感」を上げていくための地域づくりを推進していきます。

第6次津久見市総合計画

市民の Well-Being 向上

Well-Being 指標

市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」を数値化・可視化するツール



EBPM

データや合理的根拠（エビデンス）に基づいて効果的な政策をデザインするアプローチ

10年後の将来像

未来から逆算して考えるための、未来の理想の姿として、第6次津久見市総合計画が目指す「10年後の将来像」をここに示します。

「地域の力」がつどい 未来を創るまち、津久見 ～やっぱりいいやん、つくみ～

I章でも示したとおり、津久見市における人口減少の傾向は顕著です。出生率の低下や未婚率の上昇、20代から30代を中心とした若い世代の転出が見られるほか、2025（令和7）年度に実施した高校生向けアンケートでも、市内在住の高校生、市外から津久見高校に通う高校生が積極的に「将来津久見市に住みたい」と答えた割合は高くなく、将来を見据えるにあたっては非常に厳しい状況と言えます。

しかし、津久見市には“地域の力”があります。農業や漁業、セメント関連産業といった地域資源を活かした確固たる基幹産業を有しており、海や山などの自然資源は市民の誇りであり続けています。さらに、2025（令和7）年度に実施した Well-Being アンケートのほか若い世代を対象にしたワークショップでも、地域の人々への親しみ深さや地域への愛着の大きさなど、「地域とのつながり」が津久見市最大の強みとして挙がっています。このような、津久見市の“地域の力”を最大限に発揮することこそが、津久見市の未来を創るための足掛かりになると考えられます。

そして、津久見市の“地域の力”を目の当たりにしたすべての人に、津久見市の良さを感じてもらえることが、第6次津久見市総合計画で掲げる10年後の将来像です。

津久見市には、今後も進学・就業・家庭の事情などで転出する人がいるかもしれませんが。そういった方々の一人でも多くが、津久見市の“地域の力”を目の当たりにし、「やっぱりいいやん、つくみ」と思ってもらえれば、「それなら津久見でやりたいことをやろう」、「津久見で家庭をつくろう」、「津久見で余生を過ごそう」、と津久見市に戻ってきてくれるはずです。

また、津久見市を訪れた人たちが、“地域の力”を目の当たりにし、津久見市の良さを感じてくれれば、定住人口・関係人口の創出や、経済の活性化に結びつく可能性が高まります。

10年後の津久見市では、“地域の力”に手繰り寄せられた多くの人々が「やっぱりいいやん、つくみ」と思える、そんなまちを目指していきます。

I

II
基本構想

III

IV

V

VI

3つの柱

10年後の将来像を実現するために、津久見市は何をすべきか、どう進むかを考える上で必要な **3つの柱** を掲げます。これらが第6次津久見市総合計画における基本目標となります。

「安心」を実感する地域 ～暮らしの基盤を整える～

津久見市の強みを活かすためには、「安心」の基盤が必要不可欠です。健康、医療、福祉の充実や、近年頻発化・甚大化している災害への備えに加え、公共交通や救急、生活インフラの整備も重要です。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる環境を整えることが、すべての活動の土台となります。このように、暮らしの基盤を確かなものにすることで、市民が「安心」を実感する地域を目指します。

「豊かさ」を実感する地域 ～地域資源を活かし、稼ぐ力を生み出す～

石灰石やセメント産業といった津久見市が誇る基幹産業に加え、津久見市のみかんや魚などの資源、水深があり波静かな天然の良港である重要港湾「津久見港」といった地域資源からは、経済的な「豊かさ」がもたらされます。また、経済的な豊かさを感じるためには、商業の活性化や観光、まちづくりも欠かせません。さらに、自然環境や景観、公園といった身近な生活環境がもたらす精神的な豊かさも大切な要素です。また、脱炭素の推進が、地球温暖化から自然環境を守るだけでなく、新たな雇用創出の可能性など、豊かさの創出にもつながることから、取組を進めていきます。こうした地域資源と生活環境の両面を活かし、市民が「豊かさ」を実感する地域を目指します。

多様な「人財」を育む地域 ～人が育ち、地域がつながる～

人口が減少する中で、子どもから大人まで一人ひとりが津久見市にとっての宝です。学校教育のほか、子どもから高齢者までのすべての世代において、お互いを尊重した多様性を認め合う心の醸成、伝統芸能や地域文化の継承、スポーツなどを通じて人財と郷土愛を育成することが重要です。さらに、地域コミュニティの維持・強化を図り、人のつながりや地域への愛着を市民が実感しながら、これからの津久見市を彩る多様な「人財」が育まれる地域を目指します。

I

II
基本構想

III

IV

V

VI

未来から逆算

● 長期的な視点に立った究極の目標

市民の Well -Being 向上

● 10年後の将来像

「地域の力」がつどい未来を創るまち、津久見
～やっぱりいいやん、つくみ～

● 3つの柱

「安心」を実感する地域

～暮らしの基盤を整える～

基本計画の施策

1. 保健医療
2. 地域福祉
3. 高齢者福祉
4. 障がい者福祉
5. 子育て支援
6. 道路ネットワーク
7. 公共交通
8. 上下水道
9. 防災・減災対策
10. 暮らしの安全
11. 消防・救急
12. 地域経営

「豊かさ」を実感する地域

～地域資源を活かし、稼ぐ力を生み出す～

基本計画の施策

13. 農林業
14. 水産業
15. 鉱工業
16. 商業
17. 観光・レクリエーション
18. 就労環境
19. 港湾
20. 公共空間・住環境
21. 生活環境の保全
22. 循環型社会・地球温暖化防止
23. 景観の保全・整備

多様な「人財」を育む地域

～人が育ち、地域がつながる～

基本計画の施策

24. 学校教育
25. 社会教育
26. 青少年の健全育成
27. 地域文化・伝統芸能
28. スポーツ・レクリエーション
29. 地域コミュニティ
30. 男女共同参画・人権尊重社会

SDGs の達成に向けた取組

SDGsとは、持続可能な開発目標のことで、2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰ひとりとして取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、国としても積極的に取り組んでいます。



SDGsは、その基本理念として、貧困の撲滅をはじめ、地球上の「誰ひとり取り残さない」という、包摂的な世の中を作っていくことが重要であると示しています。これは、住民の福祉の増進を図ることを目的とする地方自治体にとって、目的を同じくするものです。こういったことから、本市では、第6次津久見市総合計画の各分野において、その目標指標を意識して、地方自治体レベルでSDGsの理念と目標を支えることとしていきます。